

新福岡県立美術館整備事業 基本設計プロポーザル 公開審査（一次審査） 議事要旨

日 時：令和4年11月28日（月） 13:00～17:30

会 場：アクロス福岡国際会議場

選定委員：委員長 宮城 俊作 東京大学大学院 教授
副委員長 小林 正美 明治大学 教授
委 員 稲庭 彩和子 独立行政法人国立美術館 本部主任研究員
委 員 内田 まほろ 一般財団法人J R東日本文化創造財団
高輪ゲートウェイシティ(仮)文化創造棟準備室長
委 員 坂井 猛 九州大学大学院 教授
委 員 島 敦彦 国立国際美術館 館長
委 員 中村 拓志 株式会社N A P建築設計事務所 代表取締役

事 務 局：福岡県人づくり・県民生活部文化振興課新県立美術館建設室
福岡県立美術館

[挨拶]

委員長

本日は数多くの提案者の方、そして一般傍聴の方々にお集まりいただき、委員会を代表して御礼申し上げます。

昨今、このような大規模な公共施設の設計者を選定するプロセスを公開していこうという動きが大きな流れとなっており、今回もそのような方法を取らせていただくが、審査をする側にとって大変なプレッシャーになることはご想像のとおりだと思います。

一方で、今回の敷地がある大濠公園は、近代日本のランドスケープの父と言われる本多静六氏の業績の一つであり、昭和の日本を代表する日本庭園作家中根金作氏の代表作である大濠公園日本庭園がある。このような魅力的な場所において、主題である、県民が親しみ誇りを持てるミュージアムの設計者が、どのようなプロセスを経て選ばれていくのか、それをしっかりと目撃していただきたい。

我々もその期待に応えるように努力するのでよろしくお願い申し上げます。

[意見交換]

（一次審査参加者39者の技術提案書を番号順にスクリーンに投影し、各提案に対する委員の意見交換を実施。）

[各委員の評価の基準]

委員長

投票に先立ち、7名の審査委員それぞれが、どのような評価の基準をお持ちであるか、表明いただきたい。

●今回、美術館という建物を作るわけで、1回限りのイベントではないので、今後の運用と維持管理を念頭に置きたい。私自身美術館に勤務しているので、展示室と収蔵庫の関係及び動線などがどこまで入念に考えられているか。

また、福岡県立美術館のコレクションに対する理解が非常に大事。例えば、技術提案書に森美術館にあるルイズ・ブルジョアの作品など他館所蔵作品の画像が点在していたりするので、そういった点も今後考慮してくださる方に投票したいと思う。

●公園としての、景観としての調和ということが一番気になった。隣接する福岡市美術館との連携や調和性が非常に重要。また、敷地のどちら側からも入りやすく、いろいろな層の人がこの公園に入ることができるアクセシビリティが非常に重要だと思った。展示室とスタジオやワークショップスペースなどの人が無料で入ってくるところが、行き来がしやすい関係性かといったことも評価に入れたい。

●昨今、美術館が観光の目的地になったり、国際的には誰が建物を建てたのかということで集客に大きな差ができたり、美術館建築というものが美術作品そのものみたいに扱われる要素もあり、その意味では国際都市の福岡がどういう作品を選ぶのかは非常に重要なことだと思う。美術館や図書館などの文化施設は非常に時間軸の長い建物。これから100年、200年という時間軸で、この時代にどういう方がこの建物をデザインされるのか、そういう意識でチャレンジングな、人類とともに成長していく建物はなにかというような、そういう余白のあるものがないのではないかと考えている。美術館には学芸員や運営のスタッフもいるが、一番はやはりお客様なので、そのお客様がゆくゆく美術館の運営側に回ったり作家に回ったり、ユーザーも長い時間軸でどんどん入れ替わっていく。そういう意味では、本当に多くの方たちに、様々な瞬間に刺激が与えられるような、オープンネスということも意識して評価したい。

●県知事が言われた世界に負けない美術館を、ということで、新しい試みが福岡県の心意気を示すようなものになって欲しいと思いながら審査に参画している。

まず、都市の持っている文脈・ポテンシャルについて。この敷地は、大濠公園からのアプローチと、近くには六本松があり数多くの店舗が新しくなっている。この2つの拠点に向けて動線が形成されることを考えると、六本松への通り抜けもしっかりと考えなければいけないと思う。もう一つは、遠景で大濠公園側から来た時の第一印象がどういうふうに見えるか。背後には大濠高校やNHKもあり、こういったところからどう見えるか。さらには美術館の中に入った時の一番大事な大濠公園のビューがどう見えるか、また福岡城址の方向にもビューが確保されているか。さらに、日本庭園とのつながりや使い方、既存の大濠テラスや市の美術館とのボリュームの関係、諸施設との関係がどう見えてくるかということ非常に気にしている。

●今回、技術提案書の主題「公園と一体となった美術館」、「県民が親しみ誇りを育む美術館」の2つがあったが、そういうものと無関係に自立的にオブジェクトを提案するというものが結構あったことに驚いた。やはり、今回の公園性というものをどう考えるか、公園とどう一体となっていくのか、今ある美術館との関係性といった、関係性から編み出される建築というものを大事にしたい。国体道路側のファサードも同じく、公園施設の中の一つとしてどういうふう位置付けられるのかということがきちんと考えられている提案を推したいと考えている。また、今の日本庭園に関して、きちんと保存していく立場と、かなり思い切った現代的なものをそこに挿入してコントラストみたいなものを提案していくという、大きく2つの流れがあったが、自分自身はどちらがいいのか、まだ迷うところで、これに関しては両方良いものを評価したい。

再三申し上げるが、福岡の大濠公園という世界に類を見ないこの公園性というものをきっちりと建築に反映できた、そういう建築を期待している。

●主題1「公園と一体となった美術館」に対してどういう回答をしているのかがまずは一番大きなポイントだと思う。具体的には日本庭園との連続性、動線あるいは視覚的連続性、いかに建物が開いているかというような、日本建築がもともと持っていた空間の繋がりみたいな意味での連続性が大事だと思う。また、一番大事なのはやはりスケール。今回は地下もあまり使えない、地上の高さも抑えられているなかで、スケールの調整をどうやって行っているか。建物から日本庭園が見えるのは当然だとしても、日本庭園から見た建物のスケール感は各々でかなり異なっていたので、そこは大きなポイントと思う。

それから、例えば、大濠公園の方からいろいろな人が休日に来て、子どもワークショップが行われている風景から美術館の中を見て、帰りに六本松の方に抜けて食事するというような、市民の生活を豊かにする一つのハブ（起点）としての美術館みたいなこともあると思うので、そこまで読み込んでいる案があればいいかなと思う。

3つ目は、基本計画をまとめるのに2年以上議論をしてきた中で、既存のコレクションはもちろん大事だが、これから10年、20年先を見ると、新しいメディアであるとか、いろいろな実験的な展示、あるいは公園と一体となったイベントなど、いろいろな可能性を予測させるフレキシビリティをちゃんとシステムとして持っている建物で、単なる箱としてこういう展示しかできないというのではなく将来どんな展示方法が来ても対応できる、そういう柔軟い考え方を評価したい。

委員長

1点は、この場所が大濠公園、そしてその中の日本庭園という2つのランドスケープの、福岡県民・福岡市民にとって財産になっていく、そういう只中に建てられるということで、その特徴は、すでにあるものに対してどのようなリスペクトを持って対応するかということだと思う。ただそのリスペクトという言葉の中には、現在の状態を変えることなく維持していくというこ

ともひとつのリスペクトの表現の仕方であるが、一方で将来変化していく可能性とその変化の先をどのように考え、どのようにそこに建築家なりデザイナーの所作を挟み込んでいくかという、その哲学のようなものがどこにあるかというところを、ひとつ大きな基準に置きたい。その際、大濠公園のスケールと日本庭園のスケールは全く違うことから、この異なる2つのスケールに対して建築がどのように対応していくか、そこに納得できる、あるいは将来を見据えたようなものが見えるかどうか、そこがポイントだと思う。

私自身がデザイナーなのでそういう視点も含まれているが、大変難しい課題であることは重々承知の上で、今日の投票結果には、内容的には一種のコンフリクトがあっても不思議ではないと思う。

[投票]

≪投票(1回目)≫

(各委員が持ち票8票を一次審査参加者39者のいずれかに投票。)

委員長

1回目の集計結果が出たようなので、事務局より説明をお願いします。

事務局

正面のスクリーンで、左側に各提案者の獲得した票数を表示しており、右側の表が集計結果。表の上から順に、6票獲得した提案者が3者。4票獲得した提案者が1者、ここまでの累計が4者。続いて、3票獲得者が7者、累計11者。2票獲得者が2者、累計13者。1票獲得者が9者、累計22者。票が入らなかつた提案者が17者、合計39者。

集計一覧(1回目)											集計結果(1回目)		
番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	票数	提案者数	累計
票数	0	0	3	2	0	0	0	1	3	0	7	0	0
番号	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	6	3	3
票数	1	3	1	6	1	2	6	0	3	1	5	0	3
番号	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	4	1	4
票数	1	1	4	3	0	0	6	0	3	0	3	7	11
番号	31	32	33	34	35	36	37	38	39	2	2	13	
票数	0	1	0	0	0	3	0	1	0	1	9	22	
											0	17	39

委員長

この1回目の投票結果を受け、2回目の投票に進む提案者を何者にするかについて、意見をいただきたい。

1回目の投票では各委員が票数8票を持ちトータル56の票が入っている。その中で4票、つまり過半数に達している者が累計4者。3票獲得者が7者で累計11者。2回目の対象者としてどこで線を引くかがここでの課題。

過半数が一つの目安になることは間違いないが、それぞれの委員が序列を持っていて、特に積極的に推薦したい者が8者に満たない場合は、8票の中にセカンドベストが入ってくることになる。極端な話をすると、集計した結果、セカンドベストあるいはセカンドチョイスという形で選ばれた者に6票入るということもあり得る。

39者の中から、杓子定規に過半数票獲得者で線を引くと4者となるが、3票まで獲得した累計11者を2回目の投票の対象とすることを提案したいと思うがいかがか。

委員全員

賛同

委員長

各委員に賛同いただいたので、1回目の得票数3票、累計11者を2回目の投票対象としたい。

審査結果(1回目)

3	9	12	14	17	19	23	24	27	29	36
---	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----

《投票(2回目)》

(各委員が持ち票4票を対象者11者のいずれかに投票。)

委員長

2回目の投票結果が出たようなので、結果を前方スクリーンに投影していただきたい。

集計一覧(2回目)											集計結果(2回目)			
番号	3	9	12	14	17	19	23	24	27	29	36	票数	提案者数	累計
票数	0	1	1	6	5	2	4	3	2	1	3	7	0	0
												6	1	1
												5	1	2
												4	1	3
												3	2	5
												2	2	7
												1	3	10
												0	1	11

11者に対して各委員が4票ずつの持ち票を投票した結果、右側の表で、6票獲得者が1者、5票が1者、4票が1者、3票が2者、2票が2者、1票が3者、0票が1者。

予定では、2回目の投票をもって二次審査に進む提案者を選定するが、票が分散した場合は3回目の投票を行うことも想定している。なお、最初に事務局に説明いただいたように、二次審査に進む者は4者程度としており、具体的には3者、4者、5者の3通りが考えられる。一方で審査員の数7名の過半数である4票を獲得ということは非常に大きな意味があると思うが、それぞれの委員に意見をいただきたい。

なお、私自身が応募する側に回るが多々あることから、今回、二次審査に提出いただくものはかなりヘビーだと感じている。二次審査に進むということは、大変な労力がかかる、時間とエネルギーを投入することになるという側面もある。そういった応募する側のことをあえて考慮する必要はないのかもしれないが、総合的に勘案すると、やはり過半数の4という数字が持っている意味が大きいと考えているので、私としては、累計で3者になるが、そこまでで線を引きたいと思っている。

●2回目の投票では、1回目と票のバランスが変わってきている委員もいるようで、1回目の投票を◎、○あるいは△という重みづけのない1票で行ったことが、2回目の投票結果にあらわれたのかなど。やはり過半数ということは皆さんかなり重みを持って選んでおられて、3票となると確かにいろんな好みでということも考えられるので、わかりやすいという意味では過半数で線を引くことは公平かなという気がする。

●3票以上で5者なので、もう一回4票を投じてきっちりと数字を出して4者を選ぶということもあり得るのではないかなと思う。この人を選んでもよかったのではないかなというのが心の中で残っていて、自分が持っていた票が違うところに入っているので、3票のうちのどちらかに入れたいなという気持ちも少しある。

ただ、二次審査書類作成にかかる作業量的なことも考えて3者ということでも構わないが、ここまで数字で現れてくれば3票以上でもう1回投票もあり得るのかなど。多分1票だけ入れられた方も、これだったらこの人に入れておきたいという気持ちがあるのではないかなど、勝手な思いであるが。

●3票の2者で決選投票もあるのかなと思う。

委員長

過半数という数字が持っている意味は大きいと思うので、3者については二次審査に進むということで決定し、4者目を、3票獲得の2者について1人1票を持って投票をするという提案であるが、いかがか。

●過半数獲得の3者に、3票獲得の2者を加えて5者にするという考え方もあると思う。

委員長

3者にするか、決選投票をした上で4者にするか、5者にするか、非常に難しい判断。

●過半数を獲得するという条件とするならば、決選投票をすればどちらかが4票以上獲得することになる。

委員長

二次審査の対象者について、ここではっきりさせたいと思うので挙手いただきたい。

- ・過半数獲得の3者
 - ・過半数獲得の3者に加え、3票獲得の2者について決選投票を実施し、計4者
 - ・過半数獲得の3者に加え、3票獲得の2者までを含め、計5者
- この3通りである。

●4者という数字は公表されているのか。

委員長

公表されているのは“4者程度”で、3者、4者、5者の3つを含むということ。

●その3つで手を挙げるということによろしいのでは。

委員長

それでは挙手をしていただきたい。

<挙手の結果>

- ①過半数（4票以上）獲得の3者のみを一次審査通過者とする
⇒1委員賛同
- ②過半数（4票以上）獲得の3者に加え、3票獲得の2者で決選投票を実施し
計4者を一次審査通過者とする
⇒5委員賛同
- ③3票以上獲得の5者すべてを一次審査通過者とする
⇒1委員賛同

委員7人のうち5人の賛同があった、3票獲得の2者について、1人1票お持ちいただいて決選投票を行うということにさせていただきます。

《決選投票》

(各委員が持ち票 1 票を決選投票の対象者 2 者のいずれかに投票。)

委員長

3 回目の 2 者による決選投票が終わり、今結果が出たのでその結果を投影していただく。

番号	24	36
票数	4	3

24 番が 4 票、36 番が 3 票、接戦ではあるが過半数獲得ということで、先ほどの 3 者に加え 24 番を二次審査の対象とするということで決定したいが異存はないか。

委員全員

賛同

委員長

先ほど 2 回目の投票でご覧いただいたように、過半数の 4 票以上を獲得した者は 3 者。それに 3 票獲得の 2 者について決選投票を行った結果、24 番が過半数を占めたので、先の 3 者にその 1 者を加えた 4 者を二次審査の対象とすることで決定したい。

[総括]

委員長

長時間にわたり、本日は委員の皆様方、そして傍聴の皆様方、また提案の皆様方、ご清聴いただき感謝申し上げます。無事に当初の予定通り 4 者を二次審査に進む提案者として選定することができた。

私をご存じのとおり建築の専門家ではなく、アーバンデザインとランドスケープデザインの専門である。ただ冒頭申し上げたように、やはり立地する環境、この価値をどのように建築家が受け止めて、良い新たな関係を作り上げるかということが非常に大きなポイントであるため、このような形で私が委員長を仰せつかったが、他の 6 名の委員がそれぞれ専門の分野で、第一線で活躍されておられる方々ばかりであるので、その合議性という形でこの審査を進めさせていただいた。

大変難しい課題であったと感じている。また二次審査では主題がもう少し詳細になる。日本庭園との関係、公園との関係、そしてなによりもミュージアムの中の活動、そういったものを含めた斬新な提案が出てくることを期待して、簡単だが私の審査会中のご挨拶とさせていただきたい。

[一次審査通過者(50音順)の技術提案書について委員のコメント]

株式会社 AS

●全体的に高さを抑えたボリューム計画となっていることに好感が持てた。また、各室の配置が十分考えられているプランで使いやすそうだと感じた。

「くくりのミュージアム」というワードをテーマに提案され、なおかつ今年の夏に国際博物館会議（ICOM）で定義されたミュージアムの定義が提案書に記載されており、これからの美術館の要件を満たそうという提案であると思った。

●全体的に高さを抑えたボリュームとする一方で、建築面積がかなり大きくなると思われることから、北側の外観以外についてもトータルで見た感じをもう少し表現していただきたいかった。また、1階は楽しそうな空間が提案されているが、建物としてどのように個別の空間を配置しているかを読み取れなかった。もちろん、ランダムに配置しているわけではないと思うが、その辺りについての説明が記載されていればよかった。

●国体道路側の計画が、バックヤード中心でワークショップスタジオが少し覗ける程度であり、国体道路側への配慮あるいは視点の確保というものが計画に反映されると面白くなるのではないか。

●外観パースに表現されている、現代的な高床倉庫を思わせる意匠は非常に魅力的だと思った。しかしながら、実際の外観は四角四面に大きな矩形になってくるので、このイメージが本当に四周にわたってできるのかは疑問である。また、1階の平面プランでは大濠公園の TP1.8 から TP4.0 まで最大 2.2m のレベル差があるが、バリアフリーを考慮しながらどのようにレベル差を吸収していくのかをもう少し知りたいと思った。

●日本庭園側に向かって企画展示室の高さが少しずつ低くなっていて、庭園との共存というか、建築が声高に主張しない、そういった配慮が全体に行きわたっていると感じた。

他の提案も同様だが、福岡県立美術館のコレクションへの理解、これは共通して言えるところで再度ご検討いただきたいと思う。

●提案書に「ケヤキの庭」と記載があり、国体道路側にしっかりと緑量を作っていこうとする点が素敵だと思った。今日も敷地を見に行ったが、大濠公園全体を一つの都市施設と考えると、国体道路側に大きく建物のボリュームだけがそびえ立って緑が見えない提案よりは、公園の中の美術館という感じがしっかり出るなと感じた。

また、敷地北側の日本庭園に立派な黒松が数多く生えているが、それを伐採してしまう提案を大胆な提案として評価することも可能だが、黒松もまた立派な大濠公園の風景であり、これを残そうとされている点は非常に好感を持てた。

●メディアヴォイドという形でセンターに各展示と情報がつながるような仕掛けを考えて提案されている点が、新しいミュージアムの在り方としては良いと思った。映像なども空間の中にうまく溶け込めるという点が、展示なのかディスプレイなのか演出なのか、その間に行くようなものが増えてきている現状があることから、面白いと思った。

委員長

イメージを共有させていただくとすれば、上の横長のパースは実は少々誤解を招いているのではないかと思われる。プラン見ると園路との間に「草香江の庭」と記載されており、相応の本数の樹木が描かれているので、実際はもう少し緑のスクリーンが建物の前面に入ってくるはずだと思う。おそらくパースは建物のファサードをどう見せるかということに腐心された結果かと思う。

SUEP・昭和設計共同体

●「人を誘い、森に溶け込む」という表題で、提案書の中央に県民ギャラリーと記載があり、これにより大変積極的に人を大濠公園の園路から開いて引き込んでいくというストーリー性を持った提案だと思う。茶会館を改変するとともに全体としてアートと緑の大濠公園の空間を馴染ませたいというような意識で提案されており、大変意欲的だと思う。

●日本庭園というのは経路的な操作でできていると言われていたが、それを建築に応用して、徐々に、奥に、そして上にと誘導していきながら、最後は企画展、常設展共に右上の大きなボリュームの方にまとめて、見終わったあとに一番高いところから絶景を見するというような形で、人の心理も考えながら、現代建築に日本の建築が持っている庭園性、経路性というものを入れていくという点が、非常に意欲的だと思う。

一方で、県民ギャラリーのところはクロマツが良い状態で存在しているので、これをあえて取りこんで、避けながら、さらに展開していけば、非常に魅力的になるのではないかと思うし、大濠公園は数多くのランナーが園路を走っているが、走っていて美しく楽しい風景がここできてくると思った。

●県民ギャラリーについては、搬入を1階ロビーの方から行うことになると思うので、その辺りが非常に大きな課題。県民ギャラリーでは、場合によっては一週間単位の短い会期で展示会が開催されることがあり、その都度搬入搬出の調整をしないといけない。細かな点だがそういった意味での課題が残されていると思った。

委員長

県民ギャラリーから、1階ロビーにつながって、あるいはそのあと国体道路に抜ける動線の中で見えてくる日本庭園は、確かに日本庭園の新しいビューだと言える。ただし、それがもとの庭園が意図していたところと創造的な関係を切り結ぶことができるように調整することは、実際には大変難しいことになると感じる。

●「原景の庭」というタイトルで、大濠公園とその歴史にも配慮をしていこうという提案になっている。美術館左右の景観を大事にしながらその両方をうまく生かし、美術館が風景の一部になっていくという構成で、敷地の南北を貫く動線も一応ここには確保されている。些細なことだが、カフェとレストランが両方あり、理想的にはそういうものがあると非常にありがたいが、現実的にそれが可能になるのかどうか。近年いろいろな美術館で入店していたレストランが休業して空き店舗になっている状態も散見されることから、検討すべき課題の一つだと思う。

委員長

おそらくレストラン等については、美術館とは切り離してウォークインでの利用ができる提案だと思う。また、当該敷地はそれだけのポテンシャルの高い地域であり、大濠公園もあることから、そういった運営面での工夫は当然必要。

●この案は離散型のボリューム配置というか、課題に対してひとつの大きなボリュームでどんと解いてしまうのではなく、庭園の中に空間を離散配置しつつ全体としては繋がっているという、そういう意味では庭園との融合についてしっかりと考えられた好感の持てる案。敷地北側の大濠公園側のビューをしっかりと生かしているのも、とても良いと思う。

委員長

大濠公園側の空間の出入りがかなり考えられているので、「風景になる」というそのコンセプトはかなり明快に表現されているのではないかと思った。

●建物の外装について、福岡市美術館の前川建築の外装との調和でタイルのようなものを想定していると記載があり、そうした福岡市美術館との調和というのも非常にポイントではないかと思った。